

比木神社(児湯郡木城町)

前方が比木神社の社叢



「比木神社」と記された神額が掛かる





社殿への参道



祭神の一柱に「福智王」とある/西暦660年に滅亡した朝鮮半島の古代国家「百濟」の王族の1人らしい

比木神社社記

比木神社は今から千八年前、第十三代成務天皇の御代武内宿禰に命じ国・県・邑・里を定められた時、社領として百町歩を賜り五社大明神を崇め奉祀つたのが始まりと伝えられ極めて古い創建の神社であります。以来、児湯地域の信仰の中心として住民の篤い崇敬を集め、幾星霜、特に江戸時代には、高鍋藩、秋月歴代藩主深く崇められ度々参拝し、社殿改築、鳥居の建立、龍神絵等多く寄進奉納されています。

御祭神は、

・大己貴命（大国様）お妃三穗津姫命

・事代主命（恵比寿様）

・素盞鳴命

・お妃櫛稻田姫命

・福智王

（百濟王であったが國亡び安芸の巌島に逃れその後日向の国高鍋町蚊口古港に上陸し古により比木に住み徳行ありて合祀される。）

拝殿

 [video](#)



拝殿の後ろの幣殿と本殿(右奥)



祭神の一柱「福智王」の墓がすぐ近くにあった



前方の五輪塔が「福智王」の墓らしい/左手に説明板が立っている

 [video](#)



百濟王族

福智王と御墓について

今から一、三五〇年程前(西暦六六八年頃)朝鮮半島の古代国家「百濟」は「新羅」との戦いに敗れ、禎嘉王百濟一族は日本の安芸の国巣島に逃れた。新羅より追討軍が来て、百濟一族は二隻の船にて南下中風に襲われ、豊後水道を漂流の後父禎嘉王と次男華智王は、日向市金ヶ浜に母之伎野妃と長男福智王は、高鍋町蚊口浦古港にそれぞれに漂着した。

珠の玉占いで禎嘉王は美郷町南郷神門へ、華智王は日向市東郷町中水流の伊佐賀へ、之伎野妃は高鍋町鳴野へ、そして福智王は木城町比木へと安住の地を求め居を構えた。しかし新羅の追討軍が伊佐賀へと押し寄せ、禎嘉王と華智王は迎え撃つも流れ矢で命を落とした。

福智王は、石河内、中之又、雉野、渡川のさまざまな村里の兵を率いて応戦、追討軍を撤退させた。村人達は、敬いをもつて禎嘉王を神門の塚の原に、之伎野妃は鳴野の朝鮮墓に葬り、福智王は比木神社御墓と称されるこの地に五輪の塔を建て、傍らにお供の人を従え葬られ、現在も慰靈の誠を捧げている。

福智王の墓は中央に位置し、銘は無い古い形態を残す五輪の塔で、高さ一五一センチ、幅六四センチの加工石で出来ている。古老の話では墓の前で飛び跳ねると、空洞のあるような音が聞こえたと言い伝えられている。この御墓には他に比木神社の社僧の墓、延命菩薩、弘法大師も祀られている。

異国の百濟王族ながら、徳行ありて尊崇され、神様として各々の地域の神社に合祀され、十一月四日に母を尋ねる大年下り、一月下旬に父を尋ねる神門御神幸祭(師走祭り)が、連綿と現在も斎行されている。

平成三十年三月(西暦二〇一八年)

木城町 建立

これが「福智王」の五輪塔



アップで見たところ



様々な古めかしい祭祀の跡が見られる



 video





これはすぐ近くに流れる小丸川/前方が海方向/「福智王」はここへ遡上してきたのか…

[\[動画\]](#) video



振り返ると比木神社の大鳥居が立っている/この先が比木神社境内



さて、正面の大木は比木神社のご神木であるクスノキ/木城町指定天然記念物



町指定天然記念物 比木神社クスノキ・チシャノキについて

平成十五年一月七日町制定

比木神社には、おおきじんじゃ大己貴命を始め、六柱の神体が祀られています。そのうち、

一柱に日本に亡命してきた、へいじゆ百濟王族である福智王が祀られています。この福智王は、

現在の児湯郡高鍋町の蚊口浦に漂着し、玉占いの末住み着くようになったのが

現在の木城町比木と言われています。その父親の禎嘉王が、現在の日向市

金ヶ浜に漂着し、南郷村で、みなかほ神門大明神として、神門神社に合祀されたように、

福智王は火葬大明神として当神社に合祀されています。両神社の間にこの

ような伝説が古来より存在し、国の「記録作成等の措置を講すべき無形文化財」

に指定され、その存在は高く評価されています。

この比木神社境内における、古木のクスノキは神社鳥居前に二本見られ、慶長元年（一五九六年）高鍋藩の記録において、すでにこの巨木が植えられていたことが

記されており、樹齢は推定五百年を数え、現在もその歴史的な様相を呈しています。

なお、幹周りは右六七十cm、樹高二十五m、左が幹周り五m五十cm、樹高は二十mあります。

またチシャノキは別名カキノキダマシとも呼ばれ、県内でも屈指のものであります。

また、宮崎県巨樹百選に指定され、高い評価を受けています。樹齢は推定三百年以上で、その姿は神社全体を見守るかの様相で、参拝者的心に壮大な

生命力を訴えようとしています。なお幹周りは三m六十cmで樹高は三十mであります。

このクスノキ・チシャノキは正に巨木としての規模を有し、心のふるさとを感じる

鎮守の森にふさわしい巨樹であります。今後とも大切に保存し、

後世へ引き継いでいかなければなりません。

平成十七年建立

木城町教育委員会

立派なご神木だ！



